

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富士あけぼの園			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 8日		～	2025年 11月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数)	11人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 13日		～	2025年 11月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者・利用者との関係性が良好で楽しい場所・毎日通いたいと思われている状態にあること。発語の無い利用者も行き渋りは無く、施設に行きたいから苦手な学校にも行っていると教えてくれている保護者もいて、施設を快く思ってもらえている可能性が高い状態を、継続できていること。	・細かなことも保護者に共有し、発語が無く様子が分かりにくい状態の中で理解してもらえるよう努めていること ・保護者のエースを受けて、利用者とは極力楽しみながら挑戦していけるよう配慮し、前向きに様々なことに取り組むこと。 ・他児とのトラブルなどがあっても負の気持ちを引きずって帰らせないよう職員が介入し、明るい気持ちで帰すように努めている。	・困りごと、ニーズ、課題などをより丁寧に確認するよう努め、より有意義に過ごせるよう取り組む。 ・慢心せずに常に利用者や保護者、職員を大切に考え解決困難な問題に直面してもチームで解決し、満足度が高まるよう支援力等の向上を図る。
2	施設の大きさ、駐車場の広さ、公園までの距離、地域の方から理解いただいて良好な関係性が築けていることなど、環境面にストレングスがあること。	・挨拶や地域の清掃活動に参加するなどの簡単なことから始めて、隣が神社ということもあり参拝される方などからもよく見てもらえている。 ・植物の多さから蚊や蜂などの危険は付いて回り、草むしり等の環境維持を行っている。	・環境整備や維持は時間や労力がかかり、気を抜くとすぐに安全を損なう為、計画的に維持に努めていくこと。
3	教員免許や保育士資格を持つ職員が多く、加えて離職率が低い。定年退職やスキルアップとして計画的に退職された職員がいた為に、新規職員が加わり、新しい考え方も取り入れながら、支援力向上に日々努めていること。	・働きやすい環境であるように職員の気持ちを言葉にしやすい雰囲気作りを心がけている。日々の支援において正解は一つではないという考え方の元、各職員から出る様々な意見を大切にしている。	・研修等を行う際には各職員からの知識も頼り、より完成度の高い研修資料を作ることや、研修中にも意見をもらい、より良いスキルアップを図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の老朽化が進んでいる事。トイレが1階にあり、2階の訓練室からの移動がスムーズでないこと。バリアフリー化は不完全で車いすの方は利用困難なこと。	雨漏りが時々あること、トイレの配管が脆く詰まりやすい状態にあること。	一年前に比べて、部屋の明るさは一部改善されて、雨漏りも屋上の環境を見直したことで頻度が減った状態にはあるが、利用者の不安やストレスを配慮して、安全を計れるよう職員が介入していく。 ・掃除はやりがいがあり、利用者を巻き込むと達成感を感じて掃除が好きになる利用者がいた。
2	施設近辺に自施設を卒業してからの受け入れ先が、外部の施設しかなく、送り出すことは出来るが、同じ法人内で利用を続けてもらうことが叶わないこと。	開所時に受け入れた利用者の年齢がまだ小学生低学年だったことで、長く利用を続けてくれた利用者の卒業が近い。	・卒業される利用者が同法人から卒業しても、地域全体で支援していくことが重要であることから、情報共有などの支援補助を可能な限り行う。
3	男性職員が少なく、利用者は男性比率が高いことから、同性介助において特定の職員の負担感がある。	プールの際の着替えの補助や排泄支援、自慰行為などに対する対処が必要な時がある。	該当利用者がある日には男性職員を配置する事や、同法人の他事業所と連携し男性職員のヘルプを依頼する事、保護者に事情を伝えて安心してもらえるよう工夫や相談事を保護者と一緒にするなどを行っていく。